

公的医療機関等 2025 プラン（2023 年度版）

○基本情報（2024 年 3 月 15 日現在）

・医療機関名

自治医科大学附属さいたま医療センター

・開設主体

学校法人自治医科大学

・所在地

埼玉県さいたま市大宮区天沼町 1-847

・許可病床数

（病床種別） 628 床

（病床機能別） 一般病床 628 床

・稼働病床数

（病床種別） 628 床

（病床機能別） 一般病床 628 床

・診療科目

内科、循環器内科、小児科、外科、脳神経外科、心臓血管外科、整形外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科、皮膚科、形成外科、リハビリテーション科、麻酔科、放射線科、精神科、歯科口腔外科、病理診断科、救急科

・職員数 ※臨時含む

（医師） 352 人

（看護職員） 765 人

（専門職） 262 人

（事務職員） 120 人

1. 現状と課題

①当該病院（自施設）の現状

・地域内での役割・機能

○令和 4 年 1 月には、地域医療の中核を担う地域医療支援病院の認定を受け、24 時間体制による救急医療の提供、地域の医療機関と連携を図り、病院の施設・設備を共同で利用できる体制、地域の医療従事者の質向上を図るための研修を行っている。

○平成 28 年 4 月に 3 次救急医療機関の指定を受け、救命救急センターとして従来からの 2 次救急も継続しつつ、24 時間体制で地域の救急医療に貢献している。また、平成 29 年 12 月から、医師による専門的な処置を速やかに救助現場で行えるよう、医師が現場に急行するドクターカーの運行を開始している。更に令和 4 年度より、

ECMO 装着患者等の重症患者の救急搬送のため、ECMO ドクターカーの運行を開始している。

○医療の高度化に伴い、安全で質の高い医療を提供するため、ICU・CCU（集中治療室）22床、EICU（救命集中治療室）8床、HCU（高度治療部）20床を運用し、診療機能の充実を図っている。

○平成26年8月に地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、専門的ながん医療を提供できるよう、がん化学療法センターの充実やリニアック（がん放射線治療機器）を増設するとともに、患者・住民へのがんに関する最新情報を提供する市民公開講座の開催やがん治療経験者との交流の場としてがんサロンも設けている。また、令和5年4月にがんゲノム医療連携病院の指定を受け、遺伝子パネル検査を開始し、その結果をもとにがんゲノム医療を提供している。

○平成22年5月には地域周産期母子医療センターに認定され、地域の周産期医療の中核的機能を担い、母体及び胎児のハイリスク妊娠に対する医療、新生児医療を提供している。

②当該病院（自施設）の課題

○少子高齢化が進み、今後はこれまで以上に医療従事者の確保が難しくなるため、人材の確保とスタッフの負担軽減及び業務の効率化を図る。

○地域の回復期及び慢性期医療機関との連携を強化し、患者の状態に応じた適切な医療を提供する体制を整備する。

2. 医療機能ごとの病床数

時点	病床数	医療機能別					区分別	
		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床	一般	療養
2023年 7月1日 時点	628床	561床	67床	0床	0床	0床	628床	0床
2025年 7月1日 時点	628床	561床	67床	0床	0床	0床	628床	0床

※令和5年度病床機能報告の数値を入力

3. 今後の方針

①地域医療構想を踏まえた当該病院（自施設）の地域において今後担うべき機能・役割

- 高度急性期領域の機能拡充
- 感染症病床の確保等新興感染症への対応
- 救命救急センターの機能拡充

②①を踏まえた今後の方針

（病床機能や診療科の見直し、他病院との連携の方針、その他見直しの予定等）

- 高度急性期医療機関としての役割を担うために高度治療部の更なる体制強化を図る。
- 小児医療の医療体制見直しを検討する。
- 地域の医療機関・在宅医療従事者とも連携し、急性期-慢性期-在宅のシームレスな医療構築を目指し、ICTも活用したネットワークの構築を推進する。

③その他の数値目標について

- ・①②に関連する当該病院（自施設）で設定している数値目標を記載

4. 新興感染症への取組

自由記載

- 平時から、感染拡大時にゾーニング等の観点から活用しやすい病床や感染症対応に転用しやすいスペースの確保に向けた対応を検討する。

5. その他

自由記載